



# 臨床腫瘍センターだより



第2号(2008年6月9日)

## 外来化学療法部門より

～タキソール(パクリタキセル)投与時の注意点～

今回は、卵巣癌、胃癌、乳癌などの治療に使用される「タキソール」の投与時の注意点(手技)について、看護師さんが日常業務の中で感じている「なぜ?」をいくつかピックアップしました。

### 1. 予定より点滴時間が遅くなるのはなぜ?

タキソール(パクリタキセル)は非水溶性注射液であり、輸液で希釈された薬液は表面張力が低下し、1滴の大きさが生理食塩液などに比べ小さくなります。輸液セットを用いて自然落下方式で投与する場合、輸液セットに表示されている滴数で投与速度を設定すると、目標に比べ投与速度が低下するのです。そのため、時間どおりに点滴を終了させるためには、**滴数を増加させて設定する必要があります**。

生食 20滴→1mL タキソール 27.4~32.4滴→1mL  
< 20滴/mLの輸液セットの場合 >

通常 ブドウ糖5%250mL/120分→約20滴/30秒

混合後 タキソール+ブドウ糖5%250mL/120分→約30滴~35滴/30秒 (メーカー資料より改変)

◆タキソールを生食と同じ滴下数で設定すると点滴時間が遅くなります。  
そのため、滴下数を通常の約1.5倍に調整して下さい。



### 2. 専用のセットを使用するのはなぜ?

タキソールを投与する際にポリ塩化ビニル(PVC)製のセットを使用するとDEHP\*を溶出する可能性があります。また、フィルターは成分が再結晶し析出する可能性があるため使用します。

\*DEHP: フタル酸ジ-2-エチルヘキシルという物質で、ポリ塩化ビニル(PVC)製の容器及び投与器具に可塑剤として含まれています。DEHPは動物実験において肝機能障害、肝発癌性、催奇形性を示すことが知られており、近年、外因性内分泌攪乱化学物質(環境ホルモン)の候補に上がっています。

◆輸液セットは専用のセット(JMSニトログリセリン用フィルター付き)を使用しましょう。



### 3. 自然落下で点滴する理由は?

- 1) タキソールは壊死性抗がん剤\* (vesicant) のため、**血管外に漏出させないことが大切です**。
- 2) フィルター単体をテルモ社製の輸液セットに接続すると途中でろ過網(プレフィルター)が目詰まりしポンプが停止する可能性があるため、輸液ポンプを使用せず原則として自然落下で投与します。
- 3) 当院の輸液ポンプはテルモ社製ですが、PVCフリーでフィルター一体型の輸液セットは現時点で未採用となっています。

\*壊死性抗がん剤: 少量の漏出でも潰瘍形成など重篤化しやすい薬剤のこと。

◆壊死性抗がん剤のため輸液ポンプで圧をかけずに自然落下によって点滴し、患者さんの状態をよく観察することが大切です。

なお、タキソール使用時の注意点につきましては、電子カルテ及び平成19年度外来化学療法マニュアルに掲載されております。是非一読下さい。

- ・電子カルテ: HOPE/EGMAIN-EX→ツール→薬品情報検索→薬品名入力(タキソール)
- ・化学療法マニュアル: 12頁及び41頁

### 5月の外来化学療法室利用状況

利用者数 199名

単位: 人

|          |    |       |     |
|----------|----|-------|-----|
| 消化器外科 I  | 42 | 消化器内科 | 23  |
| 消化器外科 II | 18 | 婦人科   | 5   |
| 乳腺外科     | 53 | 泌尿器科  | 1   |
| 呼吸器科     | 30 | 血液内科  | 4   |
| 呼吸器外科    | 1  | 小児科   | 22  |
| 内分泌外科    | 0  | 合計    | 199 |



## 緩和ケア部門より

～福島の緩和ケアこと始め～



福島市においては元より、在宅緩和ケアへの連携は速やかである理由を前号で書かせていただきました。今回は、福島の在宅ホスピスの中心である鈴木信行先生にインタビューしました。

岩手医科大学のご出身で、ご専門は泌尿器科です。お父様が昭和36年より福島市内で開業されており、ご自身も昭和62年に福島に戻られ、1年9ヵ月間福島県立医科大学泌尿器科で勤務された後に、お父様を手伝うようになり、自然に往診や家での看取りを経験するようになったそうです。そのうち徐々に在宅ホスピスに興味を持たれるようになり、ある末期腎がんの患者さんの「入浴したい。」という希望を叶えたいという強い思いから、保健師等その当時の地域の介護に関わる方との交流が深まり、ついには多職種が集う『たんぽぽの会』という勉強会が始まったそうです。さらには福島市医師会へアンケート調査を行い、福島の緩和医療の普及のためには医師、その他のコメディカルとの連携と緩和医療のレベルアップを図る必要があるとの結果分析から、平成14年に『在宅ホスピスケアネット福島』を設立されました。現在も年間6回開催され、県内外から講師を招いた講演や地域の介護者の事例検討など、活発な意見交換の場となっています。

先生のモットーは『安心して死ねる福島への貢献』だそうです。昨年度は75名（うち62名が悪性腫瘍）を在宅で看取られました。昨年還暦を迎えられましたが、益々お元気で温かな先生にエールを送りたいと思います。

（文責：麻酔科 佐藤 薫）



## お知らせ



### Cancer board開催案内

医療従事者を対象に、各臓器別に診療科横断的な腫瘍カンファランスを定期的で開催しております。医療従事者であればどなたでも自由に参加できます。

|        |          |        |
|--------|----------|--------|
| 消化管    | 6/12 (木) | 19時30分 |
| 骨軟部    | 6/16 (月) | 18時30分 |
| 小児     | 6/19 (水) | 19時    |
| 悪性リンパ腫 | 6/25 (水) | 19時30分 |
| 呼吸器    | 7/7 (月)  | 19時    |

詳細につきましては、院内掲示ポスター、若しくは下記までご連絡下さい。

### 緩和ケア学習会開催案内

テーマ：在宅での看取り ～家族の関わり～  
ご家族の立場から 今泉 一則 さん  
日時：2008/6/10 (火) 18時～19時  
場所：当院第二カンファランス室

一般の方、院内・院外の医療従事者の方が対象となります。緩和ケアに関心のある方は是非ご参加下さい。



### 訂正とお詫び

創刊号で、一部誤記がありました。外来化学療法部門 平成19年度 診療科別利用状況のうち消化器外科 I は433人とありました。正しくは、443人です。お詫び申し上げます。

臨床腫瘍センターだよりに対するご意見・ご要望がございましたら下記までご連絡下さい。

### 臨床腫瘍セミナー開催案内

演題：放射線治療総論

講師：当学放射線医学講座 助教 佐藤久志先生

日時：2008/6/17 (火) 18時～19時

場所：第二臨床講義室

※大学院は共通必修科目（規定の8）に該当します。

※バックナンバーの貸出について（平成20年1月分～）

これまでに開催されたセミナーのDVDを貸出します。

ご希望の方は内線3160（阪場）までご連絡下さい。

### ＜バックナンバー 一覧＞

| 日付          | 演題                                | 講師   |
|-------------|-----------------------------------|--|
| H20<br>1.15 | 患者・家族のニーズと相談窓口の役割<br>～治療と食事を中心に～  | 静岡県立静岡がんセンター<br>石川睦弓先生                                     |
|             | がん治療の現場から～食事の意味と工夫～               | 稲野利美先生   |
| 2.19        | がん診療における情報提供<br>SPIKES活用術         | 浜松オンコロジーセンター<br>渡辺 亨先生                                     |
| 3.18        | がん医療に関する専門資格制度について                | 当院臨床腫瘍センター前部長<br>寺島雅典先生<br><small>（現、静岡県立静岡がんセンター）</small> |
|             | がん薬物療法認定薬剤師について                   | 当院薬剤部 鈴木 敦先生   |
|             | がん認定看護師に学ぶ外来化学療法                  | 東北大学病院 化学療法センター<br>上原厚子先生                                  |
| 4.15        | 抗癌剤の特徴と注意点<br>～分子標的治療、在宅での対応を含めて～ | 当院臨床腫瘍センター部長<br>石田 卓先生                                     |
| 5.20        | がん専門医は何ができるのか？<br>～医療経済性に結実する専門性～ | 弘前大学医学部附属病院薬剤部<br>佐藤淳也先生                                   |

文責：臨床腫瘍センター

＜問い合わせ先＞内線：2661 E-mail：maku0704@fmu.ac.jp

担当：幕田